仙建協と市民みんなの情報マガジン

フォーサイト

FORESIGHT

巻頭特集

2023年4月から全国都市緑化フェア

〈企画特集〉働き方改革で新4Kの建設業に

〈企画特集〉東北工業大生が仙建協会員企業訪問ツアー

会員の現場紹介 生まれ変わる日本最大の交差点

フォーサイト・ドクター 命を救う心肺蘇生法とAED

〈座談会〉仙台市立仙台工業高校 在校生＆同校OB

2022 No.66

未来へつなぐ 杜の都のまちづくり

(一社)仙台建設業協会

仙建協と市民みんなの情報マガジン

フォーサイト

FORESIGHT

2022 No.66

フォーサイトって何？
仙台市の地域建設業者で組織する仙台建設業協会（仙建協）が発行する無料の地域情報マガジンです。本来の意味は「先見の明」で、「仙建協」との韻を踏んでおり、仙台の未来を見通す内容とする願いが込められています。

CONTENTS

巻頭特集
02 2023年4月から 全国都市緑化フェア

企画特集
06 働き方改革で新4Kの建設業に

企画特集
09 技術力・働きがい・社の雰囲気etc.
見たい知りたい！地元建設企業
東北工業大生が企業訪問ツアー

会員の現場紹介
11 生まれ変わる日本最大の交差点～大動脈の渋滞解消へ～
国道4号仙台拡幅・箱堤交差点立体化事業 下部工が完了

フォーサイト・ドクター
13 命を救う心肺蘇生法とAED

座談会
14 仙台工業高校在校生 & 同校OB

17 仙建協だより

（一社）仙台建設業協会 会員会社

【青葉区】
熱海建設㈱
㈱熱海工務店
㈱熱海店
㈱阿部和工務店
阿部建設㈱
㈱石井組
遠藤建業㈱
奥田建設㈱
金福建設㈱
㈱小松建設
庄子建業㈱
㈱鈴木建設
仙建工業㈱
千田建設㈱
東北共栄建設㈱
㈱東北ロンテック
銅谷建設㈱
日建工業㈱

【青葉区】
㈱橋本店
東日本コンクリート㈱
㈱広瀬組
㈱深松組
宮環建設㈱
山川建設㈱
ワーカー工業㈱

【泉区】
赤坂建設㈱
㈱泉工務店
海道建設㈱
㈱さとう総業
東北グレーダー㈱
中田建設工業㈱
㈱桝田組
丸武建設㈱
㈱三浦組

【宮城野区】
栄喜工業㈱
奥山工業㈱
㈱鎌田建設
後藤工業㈱
伸和興業㈱
仙台アスコン㈱
仙台土木建築工業㈱
㈱髙工
鷹觜建設㈱
㈱丹勝
中城建設㈱
長谷川建設㈱
㈱丸鹿
㈱湯目建設
㈱渡邊舗装工業

【若林区】
遠藤工業㈱
遠藤吉照土建㈱
皆成建設㈱
㈱加賀
木皿建設㈱
栗村建設興業㈱
サイト工業㈱
㈱佐元工務店
仙舗建設㈱
㈱丹秀工務店
㈱千葉建設
東北ニチレキ工事㈱
日道建設㈱
ヤマトワーク㈲
若葉建設㈱

【富谷市】
大川工業㈱

【太白区】
㈱阿部砂利建設
河北建設㈱
㈱柴田建設工業
㈱ショウエー
通信道路㈱
㈱東北リアライズ
㈱永岡
㈱日啓工業
北都ハウス工業㈱
㈱丸三建設興業
山辰建設㈱
陽光建設㈱

【黒川郡大和町】
大和建設㈱
八嶋建設㈱
㈱吉田工務店

【黒川郡大衡村】
㈱松川土木

がんばろう東北！ がんばろう仙台！
仙建協は、仙台の復興に全力で挑みます。

青葉山公園追廻地区（大花壇）（提供：仙台フェア実行委員会事務局）

2023年
4月から

全国都市緑化フェア

国内最大級の花と緑の祭典が34年ぶりに仙台で開催

2023年4月から6月にかけて、仙台市で国内最大級の花と緑の祭典「第40回全国都市緑化仙台フェア」が開かれます。都市緑化をテーマとする全国的なイベントが仙台市で開催されるのは34年ぶりとなり、期間内は市内各地で花と緑をテーマとしたイベントを開催。市民参加型の企画も数多く催される予定であり、仙台市は市民と事業者、そして未来を担う子供たちとともに、「百年の杜づくり」へとつながるイベントとしての開催を目指しています。

マスコットキャラクター
「森の妖精 フォレッピ」

西公園地区（水辺のテラス）

フェア・メインビジュアル

青葉山公園追廻地区（杜のリビングガーデン）

みどりと花に囲まれた まちが賑わうフェア

全国都市緑化フェアは、都市緑化の意識高揚や知識の普及を図り、緑豊かな潤いのある都市づくりに寄与することを目的に開催するイベントです。仙台市では1989年の「'89グリーンフェアせんだい」以来、34年ぶりの開催。また、2023年は仙台市の「杜の都の環境をつくる条例」の制定から50周年を迎えるため、節目の年での開催となりました。期間は4月26日から6月18日までの計54日間です。

会場は①青葉山公園追廻地区②西公園南側地区③広瀬川地区（公園2地区の周辺）をメイン会場としつつ、仙台駅ペデストリアンデッキや市内のメインストリートから成るまちなかエリア、東部エリアなど、各地に会場が設けられます。特にメイン会場となる地区は、仙台市地下鉄東西線の国際センター駅・大町西公園駅から至近であるため、公共交通での来場者を促進するなど、環境に配慮したイベントを目指しています。

期間中は宮城県内をはじめ、岩手や山形、福島といった隣県や、その他の東北地方、旅行などで訪れる首都圏などからの来場者が期待されます。

'89のグリーンフェアせんだい

テーマ

「杜の都から始まる未来、みどりを舞台に人が輝く」

- 市民が主役となるフェアを目指す
- 仲間との交流、イベントを作り上げる一体感は「杜の都」の未来へとつながるレガシーへ

開催概要

愛　称　未来の杜せんだい2023 ～Feel green!～

開催期間　2023年4月26日㈬～6月18日㈰

開催時間　午前9時30分～午後5時

入場方法　メイン会場への入場は無料、一部有料のプログラムやコンテンツを実施

会場

メイン会場
青葉山公園追廻地区、西公園南側地区、広瀬川地区

まちなかエリア会場
仙台駅ペデストリアンデッキ、定禅寺通、青葉通、宮城野通

東部エリア会場
せんだい農業園芸センター みどりの杜、せんだい3.11メモリアル交流館、震災遺構仙台市立荒浜小学校、海岸公園、高砂中央公園（仙台うみの杜水族館）

連携会場
東北大学学術資源研究公開センター植物園、七北田公園、仙台市野草園、八木山動物公園、フジサキの杜

「杜の都」の歴史や文化を感じられるエリアに

仙台七夕をイメージした大花壇やイグネのある暮らしを演出

メイン会場（青葉山公園追廻地区、西公園南側地区、広瀬川地区）

メイン会場となる3地区は、「杜の都・仙台」のシンボルである青葉山や広瀬川の豊かな自然があるだけでなく、仙台藩政以来の歴史や文化を感じることができるエリアであることを踏まえた会場づくりや展示・イベントを実施する方針です。

中でも会場の中心的なエリアとなる追廻地区には、広さ約6700平方㍍に及ぶ七夕飾りを題材にデザインした大花壇「はなばた飾り」を設置し、仙台らしさを全面的にPRする計画です。花の種類が開催期間の前半はチューリップやパンジー、後半はニチニチソウ、マリーゴールドなどと、季節の移り変わりとともに花壇の彩も変化していくことも見どころです。

整備が進む青葉山公園追廻地区（提供：高工）

会場の造園作業は、市民協働をメインに据えて実施。大花壇では今年11月と来年4月に、市民が球根や花の苗を植えるイベントを開催する予定です。

仙台市内に今も残る屋敷林「居久根」（イグネ）を連想させる庭園「杜のリビングガーデンゾーン」も整備。「住」「食」「職」「交流」など、人の暮らしとみどりを調和させる知恵を活かした未来のイグネを5つの庭園で表現し、新たなライフスタイルを提案します。

会場では、市民活動団体などによる生け花や装飾作品、花みどりを被写体やモチーフとした写真や絵画作品の展示、フラワーアレンジメントなどのワークショップを開催予定。都市緑化やグリーンインフラに関する技術の展示も計画しています。

このほか、各会場では〝Green〟をキーワードとする4つのテーマに基づき、ファミリー層や若年層に関心を抱いてもらうための多彩なコンテンツを展開。SDGs（持続可能な開発目標）を訴求するプログラム、公園の新たな活用方法などをテーマとしたシンポジウムも開く予定です。

イベントの開催テーマ

- **グリーンアクション**
  花やみどりへの関心を高める参加型プログラム
  例）フラワーカーペット制作
- **グリーンクリエーション**
  花とみどりとアートのコラボレーションによる　新しいコンテンツ
  例）イルミネーションなどの夜間イベント
- **グリーンフィールド**
  みどりを取り入れた新しい空間の利活用
  例）樹木を活用した体験型アクティビティ
- **グリーンスタディ**
  楽しみながらみどりについて学ぶ体験プログラム
  例）市民活動団体等による花みどりワークショップ

仙台建設業協会も協力

フェアの開催には仙台建設業協会も協賛しています。実行委員会に協会として参加しているほか、青葉山公園内の中央広場の整地や園路整備を会員企業の髙工が施工。

また、総合案内所となる仙臺緑彩館も、会員企業の橋本店が施工しています。

青葉山公園追廻地区（杜のリビングガーデン）→

仙台ならではのはな・みどりの風景を楽しむ

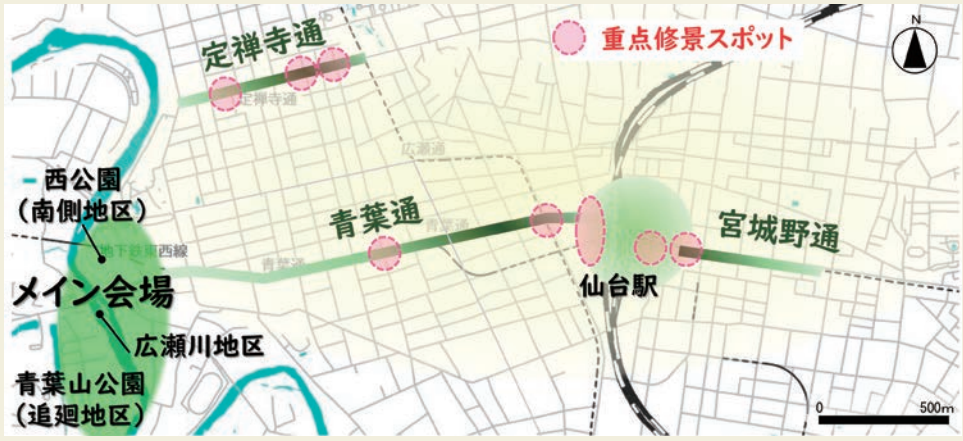
まちなかエリア会場（仙台駅ペデストリアンデッキ、定禅寺通、青葉通、宮城野通）

フェアの期間中は、都心部の回遊性を高めてまち全体を盛り上げるために、市中心部の街路を中心に花とみどりによる修景を行い、歩きたくなるようなまちなか空間を作ります。

特に定禅寺通では、ケヤキ並木や花に囲まれた憩いの空間を創出。訪れる人の滞在と周遊を促進する行事も実施する予定です。また、Wi-Fi環境を整えるなど、屋外ワークスペースの提供も検討しています。

街路や公園を会場としたイベントも開催する計画で、イベントの主体となるまちづくり団体の支援も行い、活気のある歩行空間づくりを目指しています。

定禅寺通　せんだいメディアテーク前のイメージ



まちなかエリア会場地図

震災の記憶とみどりの復興を伝える

東部エリア会場（せんだい農業園芸センター みどりの杜、せんだい3・11メモリアル交流館、震災遺構仙台市立荒浜小学校、海岸公園、高砂中央公園）

東部エリア会場は、東日本大震災の被災地でもあることから、震災の記憶の継承やみどりの復興の発信に関する事業を展開。旅行会社などとのタイアップによるみどりの再生の足跡などをめぐるツアーなども実施する計画です。

せんだい農業園芸センターでは、農業や花とみどりに関する講演会や体験プログラムを実施するなど、自然に触れながら家族で楽しむことができる会場とする計画です。海岸公園では海岸防災林として植樹した苗木を育てる「育樹会」を開催。高砂中央公園では仙台うみの杜水族館との協働で、教育・体験プログラム、SDGsを体現した生物多様性に関するイベントを展開します。

東部エリアの主要会場となるせんだい農業園芸センター　みどりの杜

せんだい農業園芸センター みどりの杜

- 農業や花みどりに関する特別講演会、体験プログラム
- 既存施設内のみどりを活かした修景、イベント
- 東日本大震災の復興に関するパネル展示

せんだい3・11メモリアル交流館・震災遺構仙台市立荒浜小学校

- 沿岸部の植物や津波による植生変化をテーマとした企画展
- 津波の脅威、震災の教訓、復興のあゆみなどを紹介する展示

海岸公園

- 海岸防災林に植樹した苗木を育てる育樹会
- 親子で楽しめる東部エリアの多様な生態系に親しむ観察会、ワークショップ
- 復興に関する企画展示や現地ツアー

高砂中央公園

- SDGsを体現した生物多様性等のイベント、植樹体験
- 仙台うみの杜水族館とのコラボイベント

企画特集

働き方改革で新4Kの建設業に

新 給与 休暇 希望 カッコイイ

働く全ての人が多様な働き方を選択できる社会を目指して、企業の働き方改革が進んでいます。少子高齢化に伴い生産年齢人口が減少する中、特に建設業は団塊世代の大量離職や若者の建設業離れもあって、将来の担い手の確保が深刻な課題となっています。より良い将来の展望を持つことができ、他産業に負けない魅力ある建設業を実現しようと、地域建設業が働き方改革に奮闘しています。

「働き方改革」は、働く人たちが個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を自分で選択できるようにするための改革です。政府は2017年3月、「働き方改革実現会議」で改革への方針を示した『働き方改革実行計画』を決定。働き方改革を、日本経済再生へ向けて〝最大のチャレンジ〟と位置付けました。この実行計画に沿って、2019年4月から「働き方改革関連法」が順次施行されています。

建設業で大きく変わるのは、時間外労働の上限規制です。これまで残業に制限がなかった建設業も、労働基準法の改正により2024年4月1日から、罰則付きの時間外労働の上限規制が適用されることになりました。改正労働基準法は2019年4月から順次施行されていますが、建設業は他産業と比較して労働時間が長く、休日が少ないことから、適用まで5年の猶予期間が設けられています。

時間外労働の上限は原則月45時間、年360時間となり、違反した場合は罰則が科せられることになります。

建設業界にとって、時間外労働の上限規制が適用される2024年4月までに労働時間を改善することが急務です。

働き方改革の取り組みが、建設業の「きつい」「汚い」「危険」の3Kのイメージを払拭し、「給与」「休暇」「希望」の新3Kに「カッコイイ」を加えた新4Kの実現につながることは間違いありません。地域の守り手として、持続的な成長を目指していくことが求められています。

働き方改革関連法（カッコ内は施行時期）

1. **時間外労働の上限規制**（建設業＝2024年4月）
2. **勤務間インターバル制度の導入促進**（2019年4月）
3. **年次有給休暇の確実な取得**（2019年4月）
4. **労働時間状況の客観的な把握**（2019年4月）
5. **フレックスタイム制の拡充**（2019年4月）
6. **高度プロフェッショナル制度の導入**（2019年4月）
7. **月60時間超残業に対する割増賃金率引き上げ**（中小企業＝2023年4月）
8. **雇用形態に関わらない公正な待遇の確保**（中小企業＝2021年4月）

建設業働き方改革加速化プログラム　国交省

建設企業が働き方改革に積極的に取り組めるよう、国土交通省は長時間労働の是正、給与・社会保険、生産性向上の3分野で施策を展開しています。

① 長時間労働の是正

- 週休2日制の導入後押し
- 適正な工期設定の推進

② 給与・社会保険

- 技能や経験にふさわしい処遇（給与）の実現
- 社会保険への加入

③ 生産性向上

- 中小建設企業のICT活用を促す
- 工事書類の作成負担の軽減
- 人材・資機材の効率的な活用促進

「週休二日制普及促進DAY」

官民で週休２日を推進！
～休日を取れる職場環境を目指して～

宮城県内の行政機関と建設業団体が協働で実施。宮城県内の公共工事を一斉にお休みしています。2022年度からは、毎月第2・第4土曜日（年24日間）に拡大して実施しています。

仙建協 会員企業の働き方改革最前線

Case.1

敷地内に保育園整備

皆成建設㈱

南　達哉
代表取締役社長

本　社　仙台市若林区六丁の目元町2の11
社員数　43人

スタッフが働きやすい環境を整えたい。特に、男性社会のイメージが強い建設業で、女性も活躍し続けられる会社にしたい。そのような考えから、皆成建設は自社の敷地内に保育園「みんなのひよこ園」を整備しました。

同社には10人ほどの女性職員が所属し、このうち4人が技術者として現場で働いています。中には現場代理人として活躍する女性技術者もおり、南社長は保育園整備に至った経緯を「頑張ってきた女性社員が結婚や出産のタイミングで仕事を辞めてしまうのは、本人たちにとってももったいないのでは、と考えました」と話します。

ひよこ園は2018年に整備。0 ～ 2歳児までの受け入れが可能で、女性社員だけでなく、男性社員の子どもを受け入れていたこともあります。設置から4年が経過した現在では、ハロウィンやクリスマスといったイベントでの機会に加えて、住宅工事の端材で積み木を作ったり、砂場の砂を整えたりと、社員と園児の交流も深まっています。

南社長は「会社の隣なので送迎の負担が無く、子どもが体調を崩した際に、すぐに駆け付けることができるといった点も大きい。いずれはこの園に子どもを預けて、わが社でずっと働いてくれる社員の事例が増えてくれれば」と期待を抱いています。

同社ではこのほか、職場環境改善・向上の一環として、残業時間削減にも積極的に取り組んでいます。残業する場合には申請が必要なルールを設け、残っている時間が目立つ社員には上長からの声掛けを行うなど、メリハリを付けて働き早く帰れる場合は早く帰る、という雰囲気づくりを実践してきました。

また、皆成建設では、海外出身の社員も活躍中。資格取得のために学校に通いながら仕事をしたり、現場監督を担当する社員もいます。性別、国籍を問わず誰もが活躍できる環境づくりを実践しています。

みんなのひよこ園

Case.2

若者に選ばれる企業に

㈱さとう総業

佐藤 智幸
代表取締役

本　社　仙台市泉区七北田字朴木沢93番地の1
社員数　23人

「働き方改革を推進して若者の雇用につなげ、技能の承継を進めたい」と話すのは、さとう総業の佐藤智幸社長です。従業員の平均年齢が50歳を超えた今、将来を見据えて若年層の採用に力を入れています。人材確保のカギとなるのは、働き方改革による就労環境の向上と考えています。

同社で特に深刻視しているのは、特殊機械を運転する熟練オペレーターの高齢化です。高齢者雇用を推進している同社では、経験豊富なシニアの方に長く働き続けてもらえる環境を整えていて、最高齢は熟練の技能を持つ75歳。まだまだ現役で活躍しています。ただ、次の世代に技能を承継していく観点からも、若い人材の確保が喫緊の課題です。

「若い世代の人たちが重要視するのは休日・休暇と賃金。旧態依然のままでは、わが社は若い人に選んでもらえない」。そうした危機感を推進力に変え、同社はまず、年間休日の拡大に取り組みました。年5日の有給休暇取得が義務化となった2020年度からは有給休暇推奨日を設定。これを含めた年間休日を、87日から101日に増やしました。また、除雪作業を請け負う冬期間は繁忙期となるため、1年単位の変形労働時間制を採用して残業時間を調整しているほか、除雪作業に当たっては、人員配置を見直して残業時間を分散させる体制づくりも検討しました。この冬に成果を検証し、時間外労働の上限規制に備えます。このほかにも、専門家のアドバイスを受けながら、就業規則の見直しを進めているところです。

これから入社する人が安心感を持って働けるように――。一連の改革には、そんな思いを込めています。「これを機に、評価制度も見直しました。頑張った分だけ給料も地位も上がります。社員がモチベーションを向上し続けられる企業づくりを目指していきます」と佐藤社長。次世代を担う人材に選ばれる企業となるよう、会社一丸で働き方改革に向き合っています。

ベテランの指導を受けながら整備のノウハウを学ぶ若手社員（奥）。「まだまだ修行中です」と笑顔を見せてくれました

Case.3

“働きやすさ”を追求

㈱渡邊舗装工業

渡邊 友紀
代表取締役

本　社　仙台市宮城野区福室7丁目4番21号
社員数　17人

渡邊舗装工業は、多様な人材が働きやすい環境整備に力を入れています。男性社会と言われる建設業界で、特に舗装の現場は『舗装材の臭いがきつい』などといった理由で女性からは敬遠されがちですが、同社の渡邊社長は性別や国籍にとらわれずに舗装業に興味を持ってくれる人を積極的に受け入れていきたいと、“働きやすさ”で企業価値を高めていきたい考えです。

かねてから「必ず女性の力が現場に生かせる」と感じていたことや、建設業界に働き方改革が浸透してきたことも同社の取り組みの追い風になっています。ライフイベントに備えて育児休暇などの制度面を整え、女性が作業員として現場に出ることを想定した環境整備を進めています。個々の働き方を作業員同士で認め合い、協力できる体制づくりにも力を入れていく考えです。

女性は力では男性に劣りますが、女性の視点や感性を現場の安全対策に生かすことができたり、男性側もマナーや言葉遣いが丁寧になったりと、女性が現場に入ることによる波及効果が期待されます。また、発注者側の監督官に女性が増えているため、女性同士でやりとりができることも今後の強みになると渡邊社長は考えています。「『建設業は男性の仕事』という固定概念をなくすべき」。女性の活躍の場の広がりと可能性に期待をかけます。

もう一つ意識しているのは、『働き続けられる』ことです。現場に張り付かなければならない作業員に比べ、時間や仕事の仕方に融通が利く技術者として働くこともできるように、希望があれば実務経験を積みながら土木施工管理技士の資格取得を後押ししていく考えです。

このほかにも同社では外国人人材を登用することを決めていて、来年4月にカンボジア人2人を作業員として迎え入れるための準備を進めています。言語や文化の違いを受け入れながらとなる新たな挑戦です。

性別、国籍といった属性にとらわれず、それぞれの可能性を引き出す環境づくりが理想です。誰もが気持ち良く、安心して働き続けられるための環境を整えていきます。

現場では協力会社で働く女性社員のためクリーンな女性用トイレも設置

働き方改革で活用できるいろいろな助成金

うまく活用して、働きやすい環境を整えましょう

例えばこんな支援があります!

建設事業主等に対する助成金

建設労働者の雇用の改善や技能の向上などを図るための取り組みを行った場合に助成を受けることができます。

トライアル雇用助成金
- 若年・女性建設労働者トライアルコース

人材確保等支援助成金
- 若年者及び女性に魅力ある職場づくり事業コース（建設分野）
- 作業員宿舎等設置助成コース（建設分野）

人材開発支援助成金
- 建設労働者認定訓練コース
- 建設労働者技能実習コース

建設事業主等に対する助成金　厚生労働省 で検索

両立支援等助成金

職業生活と家庭生活が両立できる“職場環境づくり”を行う事業主を支援します。

- 出生時両立支援コース（子育てパパ支援助成金）
- 介護離職防止支援コース
- 育児休業等支援コース

働き方改革推進支援助成金

※本年度の交付申請は11月末で終了しました。交付申請受付の再開は未定です。

労働時間の縮減や年次有給休暇の促進に向けた環境整備等に取り組む中小企業事業主に対して、その実施に要した費用の一部を助成するものです。

- 労働時間短縮・年休促進支援コース
- 団体推進コース
- 勤務間インターバル導入コース
- 労働時間適正管理推進コース

働き方改革に取り組む中小企業の強い味方!　宮城働き方改革推進支援センター

- 就業規則を見直したい
- 残業を減らしたい
- 助成金を利用したいが、使い方が分からない

etc.

働き方改革に関する様々な課題に対応するワンストップ相談窓口として、社会保険労務士などの専門家が無料でアドバイスしています。

来所相談・電話相談　メール相談　企業への訪問相談サービス　セミナー開催

住所　仙台市宮城野区原町1-3-43 アクス原町ビル201（TMC内）　TEL　0120（97）8600

技術力・働きがい・社の雰囲気etc.

見たい知りたい！ 地元建設企業

東北工業大生が企業訪問ツアー

仙建協と東北工業大学は8月8日、合同主催で企業見学会を実施しました。参加した建築科および都市マネジメント学科の学生ら20人は市内の7社を訪問。各社の特長や取り組みを知るとともに雰囲気などを体感してもらいました。

ツアー後にはアンケートを実施しました。「普段の講義や研究の役に立ったか」との設問には全員が「はい」と答えたほか「進路選択の参考になったか」の問いにも全員が「はい」と回答を寄せました。

ほかにも感想や要望を多く寄せていただきました。「土木も見れて見識が広がった」（建築1年）。「各社ごとの特長を知ることができた」（都市3年）。「お洒落な事務所やアットホームな会社があったりしてびっくり」（建築3年）。「各社個性が異なることに新鮮な驚き」（建築3年）。「雰囲気を体感できたのが大きな収穫。進路選択の幅が広がった」（都市3年）と嬉しい反応の一方「予想通り女性や若手従業員は少ないかな」（建築3年）という手痛い意見も。今後の参考としては「若手社員の声をもっと聞きたかった」（建築3年）。「質問時間がもっと欲しかった」（都市3年）など貴重な意見もいただきました。

皆さん、ありがとうございました。仙台はいま、多くの大型事業を控えています。卒業後はぜひ仙台で共に働きましょう！

陽光建設（太白区西多賀）

伸びしろのある会社です！

法面施工企業の地元第一人者として、理念筆頭に「自然と人とのよりよい調和」を掲げていると学生らに訴えました。

具体的な方策として▽建設廃棄物の発生抑制とリサイクル推進▽在来種保存による生態系の維持―等を積極的に実行すると同時に法面抑制・抑止、植生緑化、落石防護などで各種工法の技術向上と研究に日夜励んでいるとPRしました。公共施設の費用対効果の高い維持管理を行う「アセットマネジメント」への参入にも力を入れており「伸びしろのある会社です。ぜひ名前を憶えてください」と工大OBの白旗清顧問、工事部の夏堀泰尭さんらも揃ってメッセージを送りました。

頼もしい卒業生らも応援に駆け付けました

東北ニチレキ工事（若林区沖野）

舗装工事の感動共に味わおう

ニチレキ（東京都）のグループ企業として道路舗装工事はもちろん、舗装材料の製造・販売や研究・開発・診断まで手掛けるユニークな企業です。説明に当たった赤羽修社長は「以前から資源の再生利用に積極的に取り組んできた」と話し、リサイクル舗装分野では大きな成果を上げており、ほかにも遮熱性舗装や間伐材舗装などの開発成果を披露しました。

採用社員の教育制度では、アスファルトを基礎から学んでもらうとともに「社会に貢献する人材育成に力を入れています」と力説しました。

アスファルトの簡易な強度実験も行い、学生たちは棒状のモデルを利用して強度や抵抗具合を確認しました。

卒業生の坂本祐一仙台営業所長は「舗装工事の感動を共に味わいましょう」と呼び掛けました。

女性社員の活躍する様子も印象的でした

河北建設（太白区泉崎）

研修、資格取得支援制度が充実

同社はハザマ（現・安藤ハザマ）の先鋭技術部隊が設立した土木工事のエキスパート。「安藤ハザマの主要協力会社としてのサポート力と元請での高い施工力が強みです」と同大OBの佐久間大輔工務積算部長が出迎えました。

ダムや河川、道路工事の豊富な施工例および発注者からの優良工事表彰の実績紹介に続いて社員の入社以降のステップアップ・プロセスを説明。そのための研修・資格取得支援制度や人事評価システムが充実していると強調しました。

「工大卒の先輩社員が多数活躍しています。ぜひ一緒に働きましょう」と訴えました。

説明を担当した工大OBの佐久間部長

サイト工業（若林区卸町）

工大卒業生も多数活躍

一行を出迎えた齋藤法幸社長は、建設業の近代史を辿りながら、いまは多発する自然災害への緊急対応に地元企業が重要な役割を担っており、いかに若手社員を求めているかを訴えました。

「3.11では消防や警察に先だって被災地に赴き、道路の啓開に当たりました」と話し、社会的使命も大きな業界であることを力説しました。

社の若手教育制度では、資格取得を全面支援し、外部研修や実務経験期間の徹底指導など、現場所長昇格に向けてサポート面が充実していることをPRしました。

卒業生の活躍を披露し進路選択の参考にと呼び掛けた工大OBの渡辺専務（左）

OBの渡辺俊文専務は「工大卒業生も多く活躍しています。女性社員もフルに力量を発揮しています」と訴え、進路選択の参考にと呼び掛けました。

橋本店TMセンター（宮城野区福室）

最新の情報化施工に触れる

国道４号箱堤交差点橋梁下部工工事の施工状況と併せて、同社が取り組む先端の情報化施工について説明がありました。

車線数日本一の大交差点を施工するに当たって同社が担当する橋台、橋脚について、地図アプリにイメージを反映して地形や交通量など周辺環境を確認しながら施工。また3Dモデルを作成してステップを可視化することで、より正確な計画・施工を実現したと説明しました。発注者との打合せや、商業施設が林立する周辺説明にも大いに役立ったとのことです。都市マネジメント学科の学生らにとっては専攻分野でもあり、興味深く聞き入っていたほかVRを装着して実際の様子を体験するなどして一層理解を深めました。

迫力の下部工施工現場をバーチャル体験

日建工業（青葉区二日町）

生産性向上とICTに積極取り組み

道路舗装と一般土木工事を得意とする社の業務内容を中心に役員らが概要を説明しました。主に現在はICT施工に果敢に取り組んでおり、施工精度と生産性の向上、工期短縮などに威力を発揮していると強調しました。

「重機作業では初級オペレーターでも熟練者と同等のレベルで施工でき、高精度の仕上がりを実現しています」（伝野得男業務本部長）との説明では皆が関心を寄せていた様子でした。

ICT施工取り組みの成果として、3年連続のみちのくi-Con奨励賞や優良工事表彰の実績も紹介。参加者らは地元企業の高い技術力を再認識していました。

質問や感想も活発に飛び交いました

阿部和工務店（青葉区上杉）

官民建築物で豊富な実績

自らも工大OBを誇る舩山克也社長が「地元企業に興味を持って」と関心を促しました。

社のPRでは官民さまざまな建築物を手掛けた実績が強みとし、将来共に働く仲間として「前向きで熱心な若手技術者を希望している」と説明しました。

関連企業を含め工大OBも多く働いており、昨年は2名採用。まずは現場で施工管理を経験してもらい、実績を重ねながら現場を任せるに至るまでのきめ細かい教育・支援体制を説明しました。

工大OBで組織する「土木の会」の会長も務めるほか関連団体で大学支援を続ける舩山社長は「大学の発展を祈る卒業生の一人です。卒業後、ぜひお会いしましょう」と熱いエールを送りました。

事務所の雰囲気も感じてもらいました

生まれ変わる 日本最大の交差点

大動脈の渋滞解消へ

国道4号仙台拡幅・箱堤交差点 立体化事業下部工が完了！

仙台市内を通る交通の大動脈、国道4号の箱堤交差点では渋滞解消に向け、立体化工事が進んでいます（発注者＝東北地方整備局仙台河川国道事務所）。日本最大の車線数や交通量を誇る同交差点での工事とあって、多くの注目を集める大型事業になっています。

立体化イメージ（仙台河川国道事務所提供）

立体化イメージ（仙台河川国道事務所提供）

後藤工業 株式会社

監理技術者　高橋　誠司

日本最大級の車線数を誇る箱堤交差点の立体化工事。その土台となる下部工工事に携われたことは、私を含め現場に関わった職員全員の誇りです。

実際の工事では、構造物の鉄筋径が太く、間隔も狭いため組立後内部に入って行う作業や管理写真の撮影などが大変でした。後続工事に影響が出ないよう、工程調整を行ったほか出来上がっていく様子をタイムラプスカメラや動画撮影を行うなど工夫しました。

上部工架設の送り出し工法にとても興味がありません。市民としてよく利用する道路なので早く通行してみたいです。

株式会社 橋本店

監理技術者　三浦　慎二郎

交通量が多く、特に朝夕の通勤時間の渋滞は有名な交差点だったため、立体化に伴う渋滞緩和効果は間違いないです。工事の一部に携われたことは建設業人生の誇りです。

工夫した点として当社の専門部署と協力し、現況～設計データを三次元化、苦竹JCT～卸町交差点区間の設計照査を1つの（3D）データで容易に行うことを可能にしました。また、ICT舗装を採用し、人と重機の分離を確実に行うなど安全作業に努めたほか、週休二日を厳守、ワンマン測量機器やウェブカメラ・遠隔臨場等の駆使による働き方改革も進めました。工程を厳守し無事工事を終えることができました。

2月頃になると思いますが、箱堤交差点上空を一晩で橋桁(上部工)を押し出していく様子は圧巻だと思います。

施工メモ

同工事は、国道4号の仙台市若林区卸町（起点）から宮城野区鶴ケ谷（終点）までの延長6.0kmを対象とした「国道4号仙台拡幅」の一環。これまで箱堤交差点では、速度低下により著しい渋滞が発生していたため、解消に向けて卸町交差点から苦竹インター間約1.4kmの立体化を実施しています。2024年度にも開通の見通しで、現在の6車線が高架部4車線、平面4車線の計8車線となる計画です。事業の基盤となる下部工では南北の2工区に分割し南側を橋本店、北側を後藤工業がそれぞれ担当しました。今後、送り出し架設などを駆使しながら上部工を行う予定です。

命を救う心肺蘇生法とＡＥＤ

誰でもが突然、心臓と呼吸が止まる状態に陥る可能性があります。心臓と呼吸が止まった状態からの社会復帰に一番大切なことは心肺蘇生法を行うことです。場合によっては、除細動（心臓への電気ショックのこと）も必要です。ＡＥＤ（自動体外式除細動器）は、除細動を行う医療機器であるとともに、除細動が必要かどうかを判断してくれる診断機器でもあります。

堤 弘幸（つつみ ひろゆき）
仙台市消防局警防部
救急課救急対策係 係長

2003年4月　仙台市消防局入局
2005年4月　救急救命士として救急隊に配属
2021年4月　仙台市消防局警防部救急課救急指導係　係長
2022年4月　現職

心肺蘇生法・ＡＥＤ使用で社会復帰率向上

日本では2020年中、全国で２万5,790人が市民の方に目撃をされ心臓に原因のある心肺機能停止となり救急搬送されています。このうち、市民の方が応急手当（心肺蘇生法を含む）を行った場合の１か月後の社会復帰率は10.2%となっており、行われなかった場合の3.8%と比べ約2.7倍高くなっています。また、市民の方が応急手当（心肺蘇生法を含む）を行い、かつＡＥＤを使用し除細動が実施された場合の１か月後の社会復帰率は43.9%となっています。このように市民の方による心肺蘇生法とＡＥＤの使用は、突然、心臓と呼吸が止まった状態となった人の社会復帰に大きく貢献しています。

ＡＥＤは、最初に電源を入れ、本体にあるイラストと音声メッセージに従い操作を行うことで簡単に使用できます。ただ、忘れてはならないことがあります。必ず心肺蘇生法と併せて使用してください。ＡＥＤが行う除細動の目的は、止まった心臓を動かすことではなく心臓の不規則な動き（「心室細動」と言います）を取り除くことです。止まった心臓を動かすには心肺蘇生法が必要不可欠となります。また、ＡＥＤを使用した場合であっても除細動が行われない場合があります。この場合はＡＥＤから流れる音声メッセージに従い救急隊が到着するまで心肺蘇生法を実施してください。

一人でも多くの人を救うために

救急車の到着には平均約９分かかります。通報の遅れや交通事情によってはさらに長くかかることもあります。頼りは、その場にいるあなたです。仙台市消防局では応急手当を普及するために２つの取り組みを行っております。１つ目は、心肺蘇生法とＡＥＤの使用を学んでいただく救命講習の実施です。２つ目は、ＡＥＤをお持ちの事業所で、近隣で倒れている人や助けを求めている人に対して、ＡＥＤを持って駆け付け、救急車が到着するまで応急手当に協力する意思をお持ちの場合、仙台市消防局として認定し、事業所名及び所在地を当市のホームページ等で公表する「杜の都ハートエイド」制度（応急手当協力事業所表示制度）の実施です。

皆さまの協力が一人でも多くの人を救うことに繋がります。救命講習の受講と「杜の都ハートエイド」制度への登録をぜひご検討ください。

お問い合わせ先

	住　所	電話番号
青葉消防署	仙台市青葉区堤通雨宮町2-15	022(234)1121㈹
宮城野消防署	仙台市宮城野区苦竹三丁目6-1	022(284)9211㈹
若林消防署	仙台市若林区遠見塚二丁目25-20	022(282)0119㈹
太白消防署	仙台市太白区山田北前町15-1	022(244)1119㈹
泉消防署	仙台市泉区将監四丁目4-1	022(373)0119㈹
宮城消防署	仙台市青葉区落合二丁目15-1	022(392)8119㈹

※仙建協会員企業で救命講習等の希望があればお問合せ下さい。

おしえて先輩

もっと知りたい！ 建設業の仕事

仙台市立仙台工業高校

在校生&同校OB

第4回 座談会

125年余の歴史と伝統を誇る仙台市立仙台工業高等学校は、多くの優秀な卒業生を輩出ししており地元建設業界でも活躍しています。フォーサイトでは、今年も仙台工業高校土木科・建築科の生徒と、仙台建設業協会会員企業で活躍する同校OBの座談会を企画。進路選択の岐路に立つ生徒の皆さんが抱える不安や疑問に対して、次代の建設業を担う若手建設人が自身の経験などを踏まえながらアドバイスしました。

初めに自己紹介を兼ねて、生徒の皆さんから仙台工業高校に入学したきっかけや部活動、卒業後の進路について考えていることをお聞かせください。初めに土木科のお2人から。

大竹　土木科を志望した理由は、土木科の就職率と、オープンスクールで橋の模型を見た時に、先生からゼロの知識でこの作品をつくって東北大会に行った人がいると聞いて、この科に入ったら楽しいだろうなと思ったからです。オープンスクール前、事前に学校について調べた内容と、当日に先生方から教えていただいた話から、ここしかないと思いました。部活は元柔道部で、現在は美術部で活動しています。

山田　動機は、オープンスクールに参加した際に土木科の先生の話が自分の中でよく響いて、この学校で土木を学びたいと思う気持ちが大きくなり志望しました。部活はバレー部。今は就職を希望していますが、建設会社かどうか、県内か県外かなど何も決まっていません。

建築科のお2人は。

大橋　中学2年の時のインターンシップで地元工務店（建築関係）に行き、そこから建築に興味が湧いて建築科に入りました。部活は建築クラブです。進路は、いまのところ仙台市の職員（技術系）を目指そうと思っています。

佐々木　父と兄が工業関係（土木）の仕事をしていて、自分も工業関係の仕事に就きたいなと思い仙台工高のことを調べた結果、一番興味を持ったのが建築でした。部活は

前列：左から大竹さん、山田さん、佐々木さん、大橋さん　後列・左から伊勢さん、佐藤さん

アーチェリー部です。進路希望は建築業界で、実際に現場で建築に携われる仕事に就きたいです。

OBのお2人には、現在の仕事内容や入社した理由を教えてください。

伊勢　入社4年目になります。建設業に就職した理由は、仙台工高は専門教科の勉強が多く普通教科の授業が少ないことを知って入りましたが、学校で土木を学ぶうちに面白いと思って建設会社を選びました。奥田建設を選んだ理由は、地元の企業に就職したいという希望があったからです。現在は、県発注の川内沢ダム新設工事に伴う仕事をしています。ダムの現場では、日常業務内容として若いうちは写真撮りや測量がメーンになります。

佐藤　私は入社5年目になります。直近では、先日竣工した某企業の化学工場の解体現場を担当していました。いまは3月に発生した地震の復旧関係と、他の現場の先輩たちの仕事の手伝いをしています。仙台工高に入った理由は、両親が建設業関係者だった影響が強く、現場監督になろうと思って進路を決めていました。深松組を選んだ理由は、女性採用に積極的だったからです。

奥田建設
（仙台市青葉区）
伊勢 政史（いせ まさし）さん
2019年3月卒

深松組
（仙台市青葉区）
佐藤 里咲（さとう りさ）さん
2018年3月卒

それではOBのお2人にお聞きします。地元建設業の魅力や良いところは。

伊勢　地元企業の魅力は、仕事を通して地元に貢献できることです。地元に就職して良かったなと思うところは、自分の造ったものが間近で見られることだと思います。

佐藤　私も一緒で、家族や友人などと歩いている時に、〝自分がこれを造ったんだよ〟と話せることが地元企業ならではだと思います。あと、県外に就職すると一人になることも多いと思うのですが、県内だと家族や友人が近くにいるので気分転換ができてストレスも少ないのかなと思います。

生徒の皆さんから聞きたいことはありますか？

大竹　実際に自分が建設に関わって、どんな時に達成感を感じますか？

伊勢　1年目に担当した現場は荒浜地区で避難の丘という避難施設の造成でしたが、まさに命に関わるというか、今後も社会の安全・安心に役立つ施設に携わっていると感じて、やりがいを感じました。

当時は震災復興が市内の工事でも大きなウエートが占めていましたから、身近で震災復興に携われたことが達成感を感じられたということですかね。

山田　地元企業に就職して、今までと意識が変わりましたか。

佐藤　建設業に入って変わったのは、よく工事現場を見るようになりました。どこの会社が施工するのか、どんな建物が建つのかなどが気になったりします。

学校で学んだことで生きていること、就職してから学校で学んだことで、違うなと感じたことはありますか。

伊勢　専門教科を勉強したことが就職後に生きていると思います。専門用語も全く知らない言葉とかではなく、授業で聞いたことがあるので、少し調べれば理解できます。また、学校では土木科の先生から提出物の期限を守るよう厳しく言われていましたが、そうしたことも社会人になってとても大事だなと感じています。

佐藤　建築の授業で書いている図面は平面で、立体での姿はあまり想像できないと思いますが、実際現場に行ってみると〝こういうものなんだ〟と何となく分かります。これも基礎的なものを学校で学んでいたおかげで、教科書の中に書かれていることが、社会人になってからも数多く役立っています。卒業しても教科書は捨てない方がいいですよ。

大橋　在学中に取得した方が良い資格はありますか。

佐藤　施工管理技士が取れたらとは思いますけど、社会人になってからでも頑張って取れるので、高校の時にできることをやると良いと私は思います。

伊勢　同じく施工管理技士の資格は勉強して取れる環境にあるので、取った方が良いと思います。

山田　土木科の土木基礎力学とか測量とかの専門科目のうち、就職してからどれを多く使いますか。

土木科2年
山田 健太（やまだ けんた）さん

伊勢　一番使う機会があるのが測量です。現場では測量から始まるので、機械の使い方などはしっかり覚えておいた方が良いですね。業務面では施工管理の品質管理なども大切です。

佐藤　2年生で学んだレベルは現場でも使います。会社に入って最初に覚えるのがレベルや光波などトランシットの測量機器の扱い方で、しかも早さも要求されますから、今のうちにしっかり慣れておいてください。

代表して給料や待遇などはどうですか？

伊勢　忙しかったりしますが、工業高校を出ていない中学校の友達と話したりはしますが、それに比べると結構頂いているかなと思います。もちろん、福利厚生や残業手当もつきます。

佐藤　私も残業代はきちんと頂いています。ひと昔までのように建設業界がブラックだというのも働き方改革で変わってきているので安心してもらいたいです。

休日に関してはどうでしょうか？

伊勢　週休2日制で土日休みもとれます。

工期前の忙しい時期などは土曜日出勤もありますが、正月とGW、お盆は1週間くらいまとめて休みになるので、そこで友達と遊んだり出かけたりもできます。

佐藤　忙しい現場だと土曜日に出ることもあります。ただ、工事期間は休めなくても、休日に働いた分、建物が完成した後にまとめて休める制度があって、私も数年前新築工事に携わっているときは1か月休めました。人によっては2か月まとめて休んで旅行にいったりしていましたね。

佐々木　資格取得の勉強が入ってくると休みの時間が減ったりしますか。

建築科2年
佐々木（さささき） 爽耀（そうよう）さん

佐藤　現場によります。現場の忙しさにもよりますが、所長の判断で試験が近いから休んでいいよという配慮があったりもします。そのときの状況次第ですね。

佐藤さんに質問です。建設業は男性が多い職場ですが、そうした中でも建設業を選んだ理由を聞かせてください。

佐藤　父が内装で、母がプレカット工場で働いてので、その姿を見て建築業界に入ろうという思いで入学し、卒業するころには現場監督になりたいと思っていました。ですから、男性が多いとかはあまり考えずに進んでいました。

大橋　男性と比べて体力面で苦労したところはありますか。

佐藤　今のところ苦労したことはあまりないです。でも法律で女性が持てる重さとか、何時間作業できるとか決まっていたりするので。そういうところで男女差を感じたりすることはあるかもしれません。

このほか、生徒さんからさらに聞いてみたいことは？

大竹　私は就職希望ですが、何かアドバイスを頂けますか。

伊勢　自分のやりたいことを見つけることが一番だと思います。土木科だから土木というのにこだわりすぎないで、コンサルタントや測量など土木分野は多岐にわたっていますから、しっかり調べて自分に合ったところを見つけることが大切だと思います。

佐々木　教科書以外に今のうちにやっておいた方がいいことはありますか？

佐藤　機会があればインターンシップは参加した方が良いです。気になった会社は実際に訪問して、雰囲気を肌で感じることが大切です。先生に相談して仙台工高の先輩がいる会社に行くのも手だと思います。

大橋　高校を卒業してすぐに働くことに不安や抵抗はなかったですか？

建築科2年
大橋（おおはし） 采和（あやな）さん

佐藤　私は進学するかどうか迷いました。でも最終的に大学に進学した人よりも職人さんと触れ合って、早く仕事ができるようになろうと考えて就職を選びました。

伊勢　私はあまり勉強が好きではないので進学することはあまり考えなかったのですが、就職に必要な資格の取得などには力を入れて準備していました。

会社や現場では、親よりも年上の方などいろんな人がいる中で、心がけていることはありますか。

伊勢　現場管理は職人さんたちより上の立場で指示しないといけないので、常にコミュニケーションを図るよう心がけています。

佐藤　職人さんにはいろんな年代の方がいて、さらに外国人研修生などもいるので、相手に合わせた話し方を心がけています。敬語で話した方がいい人や、気さくに話した方が気に入ってくれる人とか、コミュニケーションを図る中での中で分かってきますから、休憩中などに積極的に話しかけるようにしています。そうして仲良くなることで、こちらが困ったときでも助けてもらえます。

これまでの話を聞いて、抱いていた建設業のイメージは変わりましたか。

大橋　建物って少ない人数で造っているのかなと思っていましたが、思った以上にいろんな人や、いろんな業種が関わっていると感じました。

佐々木　現場監督するにあたって、職人さんとのコミュニケーションの取り方などを知れたので良かったと思います。

山田　仙台工高でも〝コミュニケーションが大事〟みたいな雰囲気があるので、就職してからのコミュニケーションの取り方などを聞けて良かったと思います。

大竹　土木科は先生たちがアットホームで楽しく話しかけてくれるので、お2人の話を聞いて今後も生かせるかなと思いました。

土木科2年
大竹（おおたけ） 琉生（るい）さん

最後にOBのお2人から在校生に向けて応援メッセージを。

伊勢　これから進路のことなどでいろいろ悩むと思いますが、自分の直感を信じて残りの学校生活を楽しんでください。就職活動では何よりやる気を示すことが大切です。自分の長所を積極的にアピールして頑張ってください。

佐藤　就職するにしても進学するにしても、建設業界に入るのであれば今の勉強を頑張ってください。あとはコミュニケーションに関して、1年目からに現場で自分の祖父世代の方と話す機会も多いので、今のうちからバイトをしたり学校の先生と積極的に話すなど、社会経験を積んで慣れるようにしておくのも良いと思います。あいさつを大事にして、頑張ってほしいですね。

皆さんありがとうございました。

仙建協だより

深松会長を再任
22年度定時総会

仙台建設業協会（以下、「仙建協」）は5月7日、2022年度定時総会を仙台市の江陽グランドホテルで開き、役員改選で深松努会長を再任しました。本年度は、大学生を対象とした会員会社見学会や新4Kに向けた労働環境の改善などに取り組む方針を示しました。

深松会長

深松会長は「さまざまな課題に直面する中でも災害時の対応など、市民の当たり前の生活を守るのがわれわれの仕事。なくてはならない産業なので、若者に魅力を伝え人材を確保していくことが重要です」と語りました。

22年度は、事業計画の重点項目に▽会員企業の技術向上および経営の改善を推進▽労働災害の防止および雇用改善を推進▽環境・福祉▽建設業の社会的使命▽関係機関・関係団体との折衝および連携―に関する取り組みなどを盛り込みました。

このうち、建設業の社会的使命に関する事業では、地元建設会社の認知度向上に向けた東北工業大学生対象の会社見学会や高校生現場実習の実施、仙台市との合同訓練開催などを計画。雇用改善推進に向けた事業では、新3K（給料・休日・希望）に「カッコイイ」を加えた新4Kに向けた労働環境の改善に取り組む方針です。

千代大橋を担当
広瀬川1万人プロジェクト

建設関係団体や企業が多数参加する「広瀬川1万人プロジェクト」の一斉清掃が4月23日と10月1日、仙台市、名取市で行われました。このうち、仙建協は千代大橋会場を担当し、河川敷の除草やごみ拾いを実施しました。

このプロジェクトは、清掃活動を通じて広瀬川の保全と仙台のまちづくりに興味を持ってもらおうと2002年から開始。春と秋の年2回、活動を展開しています。

深松会長は「仙台の宝である広瀬川を美しく保つためにも重要な取り組みです。災害時の復旧作業等はもちろん、平時から仙台のために活動していきましょう」と呼び掛け、参加者はその後約1時間かけて清掃に汗を流しました。

春の清掃活動

作業終了後、参加者からは「継続して活動に協力していきたいです」「コロナ禍で協会として集まることが少ない中、多くの人と時間を共にできてうれしかったです」といった感想が聞かれました。

建設業の仕事を体感
仙台工高生が現場実習

仙台市立仙台工業高等学校生徒の産業現場実習が7月5日から8日まで行われました。仙建協から9社が受け入れに協力。生徒らは、座学や体験型の実習を通じて仕事の一端に触れました。

この実習は、2年生を対象に毎年行っているものです。座学だけでなく、実際の現場で測量等の作業を体験。実践的な経験を得ることで、知能や技能、技術の習得を目指しながら、現場で働くことの魅力を伝え、地域建設業の未来に貢献する人材育成を目的に実施しています。仙建協では、建築科と土木科の生徒受け入れに建築4社、土木5社が協力しました。

このうち、㈱髙工には土木科の3人が訪れました。生徒たちは初日の5日、同社が施工している「青葉山公園（中央広場地区）施設設備工事」の現場で清野雄一現場代理人らの指導の下、トータルステーションでの測量やドローンの操縦などを体験。2日目はアスファルト・コンクリート製造工場、3日目は橋梁の塗装塗り替えの現場をそれぞれ見学しました。

生徒たちは「3Kの印象があったが、実習を通じてイメージが改善した」「学校では経験できない貴重な体験ができた。作業してみて、やりがいも感じた」「想像以上に技術が進んでいることに驚いた」と感想を述べるとともに、「将来は土木の道に進みたい」と力強く語っていました。

実際に測量を体験

●木建パトロール
●第3回集団資源回収運動
●仙台労働基準監督署との意見交換会

10月
●広瀬川1万人プロジェクト・第32回一斉清掃（千代大橋）参加
●木建パトロール
●2022年度安全大会
●仙台市との意見交換会
●第59回全国建設業労働災害防止大会（金沢）
●2022年度特定家畜伝染病防疫（埋却）演習
●2022年度第2回仙台労働基準監督署・仙台市合同安全パトロール
●環境福祉委員会寄贈式

11月
●常任理事会・第169回理事会
●木建パトロール
●2022年度建設工事安全パトロール
●宮城県建設業協会災害訓練参加
●第4回集団資源回収運動

12月
●木建パトロール
●臨時総会

★事務局だより★

今年7月1日より、島貫美香さんと阿部康孝さんが新たに加わりました。島貫さんは主に総務、阿部さんは経理を担当。2人とも宮城県出身で「地元建設業の力になりたい」と意気込んでいます。

分からないことは青田専務に加えて会館内の他団体職員に教えてもらえると言います。「親切に教えてもらい助かっています。事務所は笑いが絶えず、良い雰囲気です」と印象を語ってくれました。

島貫さんは「毎月さまざまな行事があり、早く1年の流れを把握したい」、阿部さんは「協力することが大事」とそれぞれ話し、健全な建設業のために縁の下の力持ちとして励む決意を示していました。

島貫さん、青田専務理事、阿部さん

今年も資源回収運動を継続

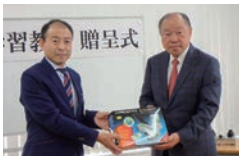
収集金で環境教材を寄付

仙建協が環境福祉事業の一環として実施している集団資源回収運動が、今年で4年目を迎えました。この運動は、会員の各会社や家庭から出る資源ゴミを協会単位で集めて回収し、収益を福祉事業として社会に還元しようという取り組みで、年5回の回収を予定しています。

資源ゴミは各企業単位で集め、回収日前日に集積先会社（13社）の指定場所に持ち込む流れとなっています。

10月28日には、4年目の収集金で仙台市の環境学習拠点「せんだい環境学習館たまきさんサロン」に水素と酸素の掛け合わせで発生したエネルギーで動くラジコンカーと、手回し発電機の比較実験器を贈りました。

贈呈式に参加した仙建協環境福祉委員会の菅原博委員長は「今後もこの活動を続けていきます」と決意を表明。仙台市環境局の細井崇久局長は「教材を活用し、燃料電池の仕組みを体験しながら知ることができる」と期待を込めました。



贈呈式の様子

円滑な会話の方法など学ぶ

若手社員研修会を初開催

仙建協と宮城県土木施工管理技士会仙台支部は6月3日、コミュニケーションをテーマとした若手社員宿泊研修会を仙台市のホテルクレセントで初開催しました。20代の若手約20人が参加し、現場で円滑なコミュニケーションを図るためのコツや応用力などを学びました。

開会に先立ち、仙建協の青田茂雄専務理事は「仕事をする上でコミュニケーションは欠かせません。研修の中で気軽に仕事のことなどを話し合える仲間が見つかることを願っています」とあいさつしました。

会では、東北工業大学の今西肇名誉教授が講師を務め▽コミュニケーションの基礎知識▽楽しく営業する▽伝えること、伝わること▽効果的なプレゼンテーション▽文章の作り方―などをテーマに研修しました。

今西名誉教授は、「相手の情報を知りたい場合はこちらが何者かを理解してもらう必要がある」と強調。その上で、円滑なコミュニケーションを図るためのコツや伝えるために必要な文章づくりなどを解説しました。

全景

研修後のアンケートでは「技術職でも行政や近隣住宅への対応の仕方について応用できそうな内容で勉強になりました」「このような機会があると人脈や知識も増え、一層業界の発展につながると感じました」といった感想が聞かれました。

円滑・迅速な災害対応へ

若林区と合同訓練

仙建協は6月2日、仙台市若林区と合同で防災訓練を実施しました。仙建協から同区隊長社の皆成建設が出動。区役所職員と情報をとりまとめながら、円滑な連携を目指し初動対応の手順などを確認しました。

この訓練は、仙建協と仙台市が結んでいる「災害時における応急措置の協力に関する協定」に基づき、区単位で毎年実施しているものです。

当日は、9時にマグニチュード8・0、震度6弱の地震が発生したと想定。発災後、仙建協災害応急措置協力会の若林区隊長社・皆成建設から連絡員として土木事業部の遠藤孝夫土木課長が若林区役所に駆け付け、無線による円滑な情報交換で仙建協の協力体制を整えました。

その後、パトロールに向かった若林区職員から新寺四丁目公園で法面が崩壊しているほか、閖上大橋で段差が生じているといった報告が入り、班長社の遠藤吉照土建と仙舗建設が現場に急行。到着後、速やかに状況を確認し応急復旧が必要と判断。連絡を受けた区は、応急復旧作業や資材の搬入などを仙建協に要請しました。円滑なやり取りで、早急に初動対応を終えました。

訓練後、若林区建設部公園課の大坪昭彦課長は「常に顔の見える関係を構築する意味でも非常に重要な訓練だ。訓練を通じて迅速な災害対応につなげていきたい」と語りました。

無線で連絡を取る皆成建設の遠藤課長（手前）

仙台市内12カ所へ

福祉施設に寄付金贈呈

仙台建設業協会は、2月中に社会福祉施設への寄付活動を実施しました。施設の運営などに役立ててもらうため例年企画しており、今回で28回目。新型コロナウイルス感染拡大防止のため贈呈式は行わず、仙台市内12カ所へ送金しました。

新しい顔ぶれ

（**代表者変更**）

2022年5月27日　東北ニチレキ工事㈱
代表取締役社長　**赤羽　修**

2022年5月31日　木皿建設㈱
代表取締役　**穂積 清司**

2022年7月20日　中田建設工業㈱
代表取締役　**千葉 公哉**

（**入会**）

2022年4月15日　北都ハウス工業㈱

2022年8月2日　大川工業㈱

行事報告

4月
- ●第166回理事会
- ●木建パトロール
- ●広瀬川1万人プロジェクト・第31回一斉清掃（千代大橋）参加

5月
- ●2022年度定時総会
- ●5区役所災害応急措置協力会説明会
- ●木建パトロール
- ●第1回雇用・安全パトロール
- ●第1回集団資源回収運動

6月
- ●仙台地区木造家屋等建築工事安全委員会（書面開催）
- ●宮城県土木部施工管理技士会仙台支部代議員会（書面開催）
- ●仙台市防災訓練参加（録画参加）
- ●第30回定期会議
- ●木建パトロール（中止）
- ●若林区との合同訓練
- ●仙建協災害時合同訓練
- ●会員会社若手社員宿泊研修

7月
- ●仙台工業高校【土木科】【建築科】現場実習受け入れ（3日間）
- ●木建パトロール（中止）
- ●2022年度第1回仙台労働基準監督署・仙台市合同安全パトロール（中止）
- ●2021年度施工仙台市優良建設工事表彰
- ●仙台建設業協会2021年度施工仙台市優良建設工事表彰（縮小開催）
- ●第2回集団資源回収運動

8月
- ●常任理事会・第168回理事会
- ●木建パトロール
- ●第2回雇用・安全管理パトロール
- ●東北工業大学生による会員企業見学会

9月
- ●仙台労働基準監督署・労安委員指導員意見交換会

フォーサイト
2022/NO.66

発行／(一社)仙台建設業協会　仙台市青葉区支倉町2-48　TEL.022(265)7094(代表)

発行所　一般社団法人　仙台建設業協会　発行　2022年12月

STAFF
■発行人／深松努　■編集人／熱海義浩　■編集スタッフ／三浦修・土山拓・渡邊友紀・青田茂雄・島貫美香・阿部康孝
■編集協力／建設新聞社　■印刷・製本／建設プレス